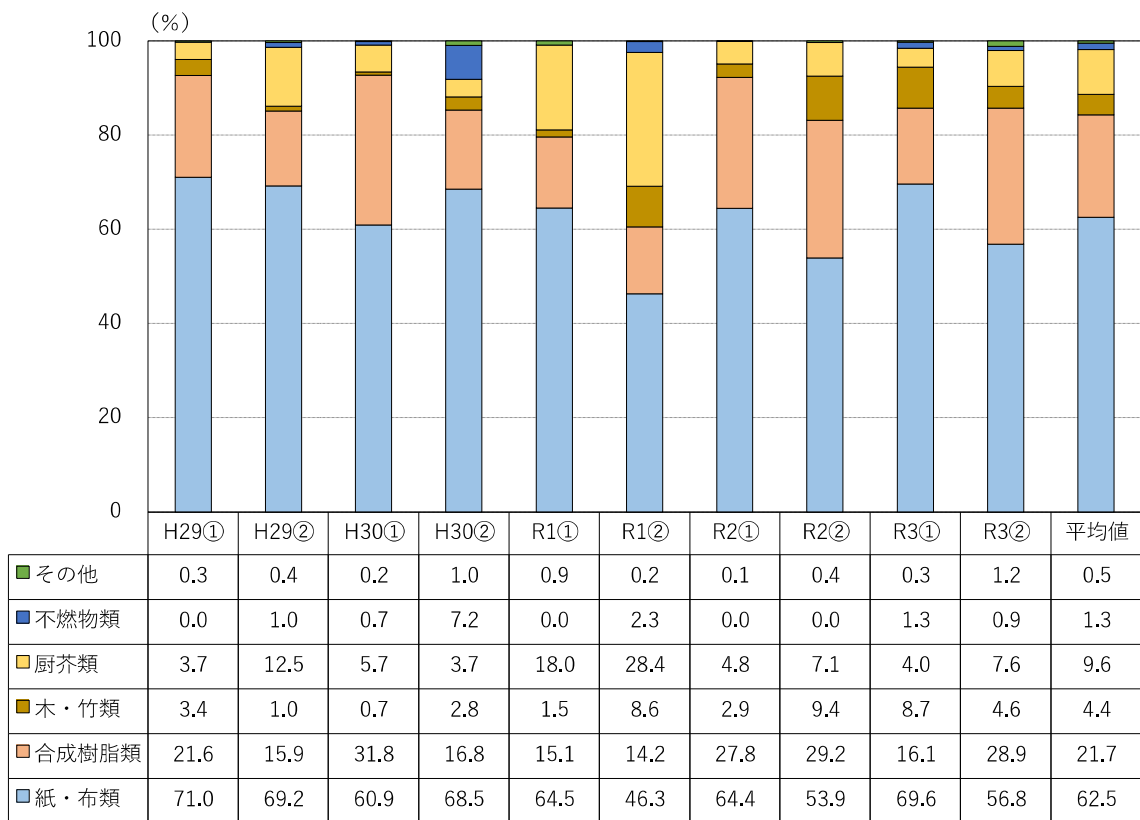
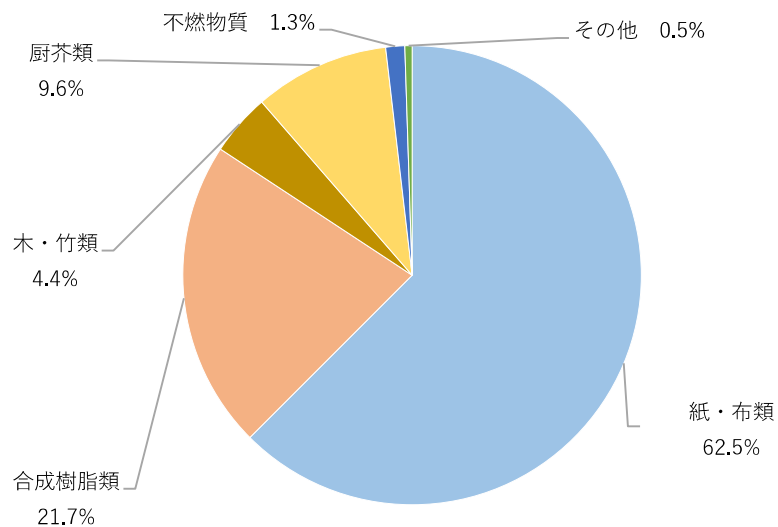


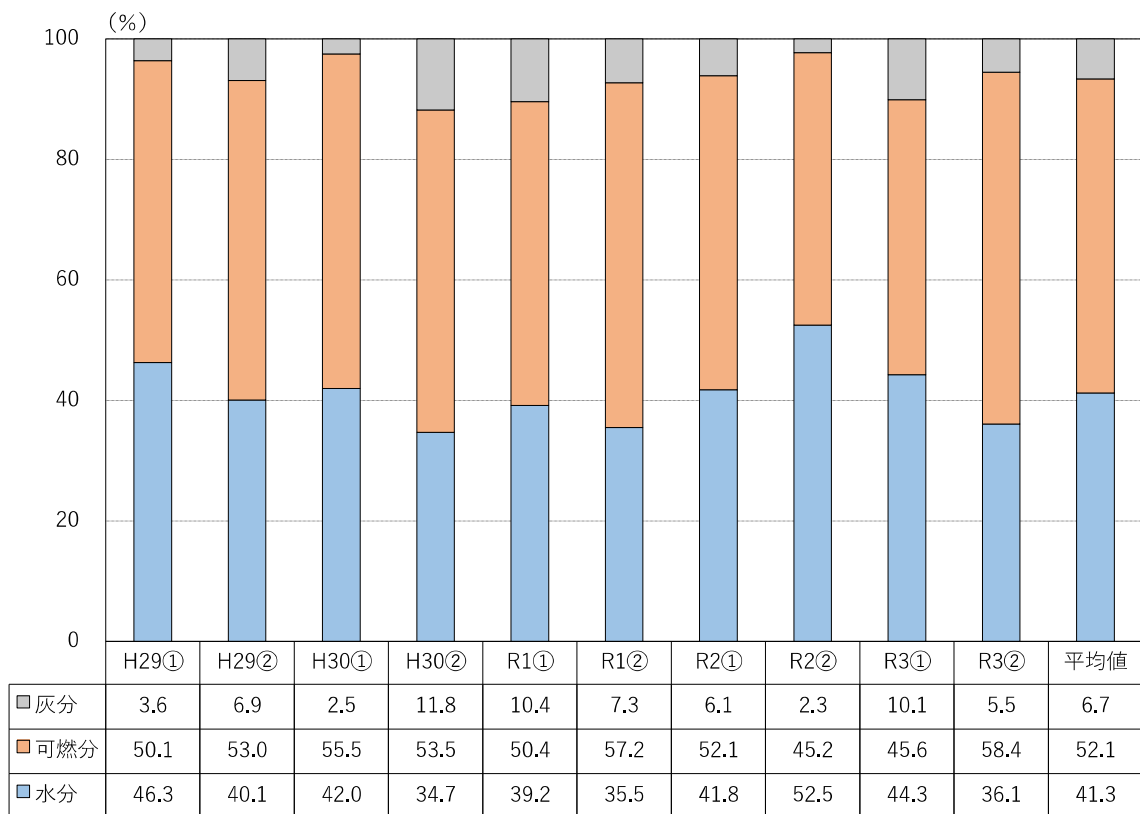
◆図表 3-3-2 ごみ組成分析の推移



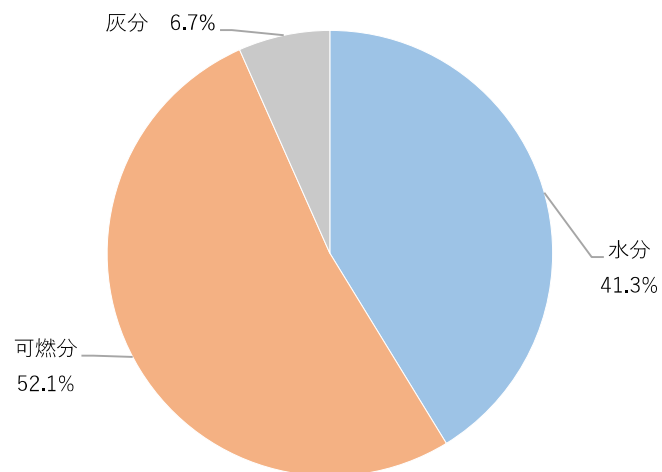
◆図表 3-3-3 燃えるごみの組成構成比（過去 5 年間平均値）



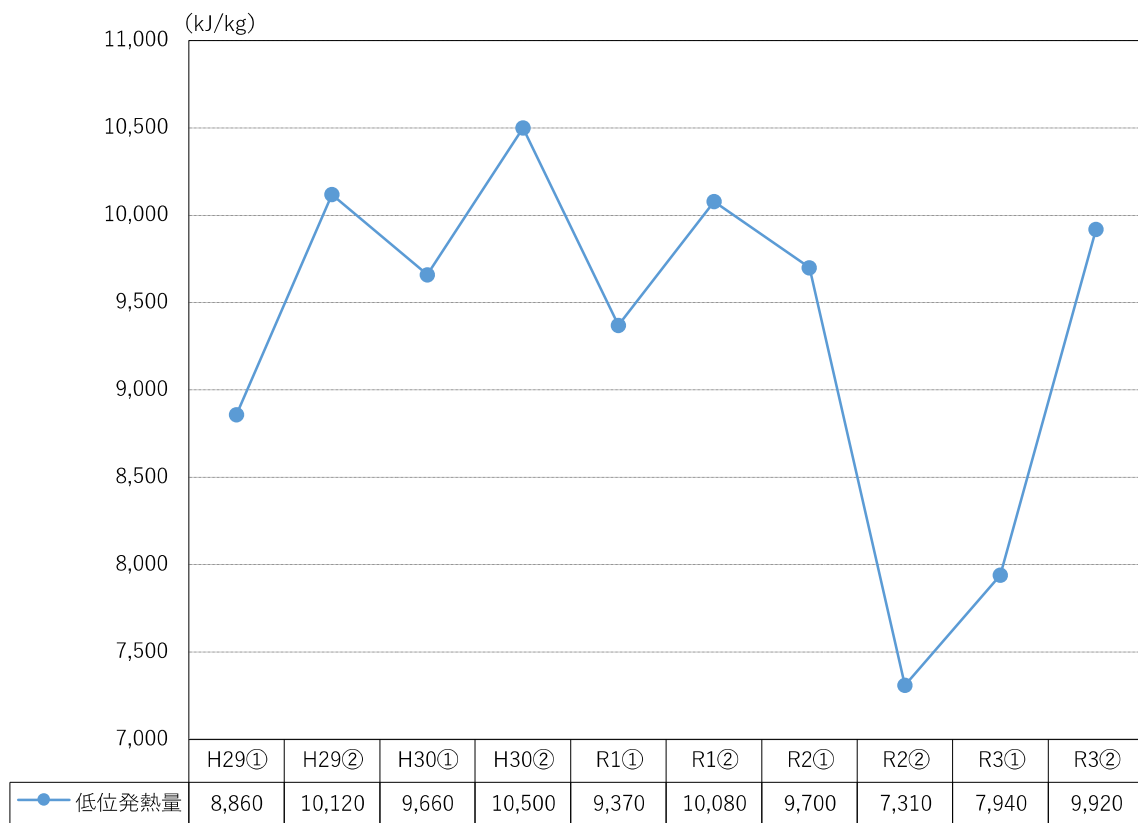
◆図表 3-3-4 三成分分析の推移



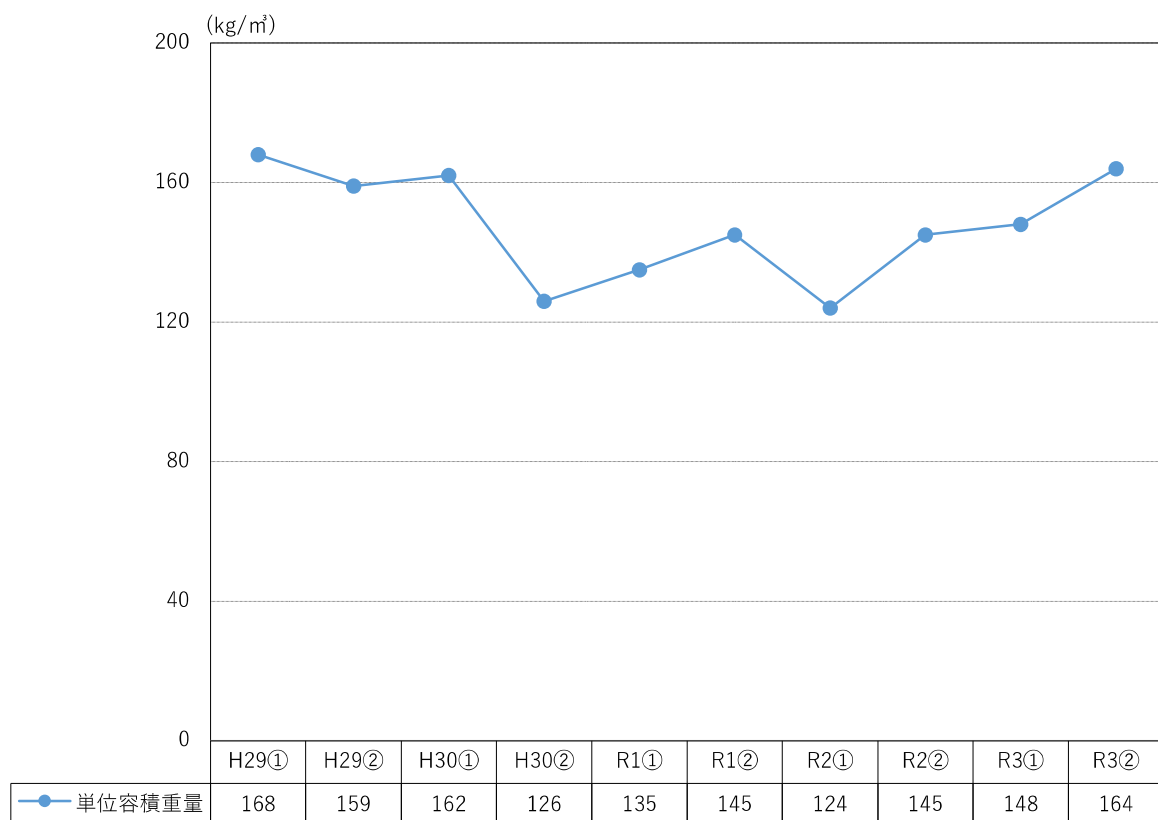
◆図表 3-3-5 三成分の構成比（過去 5 年間平均値）



◆図表 3-3-6 低位発熱量の推移



◆図表 3-3-7 単位容積重量の推移



3-4 ごみの減量化及び資源化の現状

本圏域では指定ごみ袋によるごみの排出、資源物の分別収集等を実施し、ごみの減量化及び資源化に取り組んでいます。

1 指定のごみ袋による排出

本圏域では燃えるごみ、燃えないごみ、空きビン、ペットボトル及び発泡スチロールについて、記名した指定ごみ袋の使用を実施しており、町民の分別徹底によりごみの減量化及び資源化を実施しています。

2 資源物の分別区分

本圏域の資源物分別区分が現在に至るまでの沿革を図表3-4-1に示します。

◆図表 3-4-1 本圏域の資源物の分別区分の沿革

年度	変更事項	ごみの分別区分
平成9年度以前	—	・燃えるごみ ・燃えないごみ ・粗大ごみ
平成10年度	粗大ごみ処理施設の供用開始に伴い、新たに資源物の分別区分を追加 ・缶、ビン、金物、ガラス ・ビニール、プラスチック ・ペットボトル、発泡スチロール	・燃えるごみ ・燃えないごみ ・燃やせないごみ ・粗大ごみ ・缶、ビン、金物、ガラス（資源物） ・ビニール、プラスチック（資源物） ・ペットボトル、発泡スチロール（資源物）
平成12年度	缶、ビン、金物及びガラスは粗大ごみ処理施設で燃えないごみと同様の処理を行っているため、分別区分の名称を変更 缶 ビン 金物 ガラス ➡ 燃えないごみ	・燃えるごみ ・燃えないごみ ・燃やせないごみ ・粗大ごみ ・ビニール、プラスチック（資源物） ・ペットボトル、発泡スチロール（資源物） ※「燃えないごみ」の中から、缶や金属類等は資源化されている。
平成13年度	粗大ごみの中の家電4品目について、受け入れを停止（法律の改正による） ・テレビ、エアコン、洗濯機、冷蔵庫	・燃えるごみ ・燃えないごみ ・粗大ごみ ・ビニール、プラスチック（資源物）
平成14年度	ごみ処理・灰溶融施設の供用開始に伴い、焼却処理を行っていくため、分別区分の名称を変更 ビニール プラスチック類 ➡ 燃えるごみ	・燃えるごみ ・燃えないごみ ・粗大ごみ ・ペットボトル、発泡スチロール（資源物）
平成20年度	スtockヤードの供用開始に伴い、新たに2品目の分別区分の追加 ・空きびん ・ダンボール	・燃えるごみ ・燃えないごみ ・粗大ごみ ・ペットボトル、発泡スチロール（資源物） ・空きビン（資源物） ・ダンボール（資源物）

※粗大ごみ及びダンボールは沖永良部クリーンセンターへ直接搬入により分別回収されています。

3 本圏域の資源化量

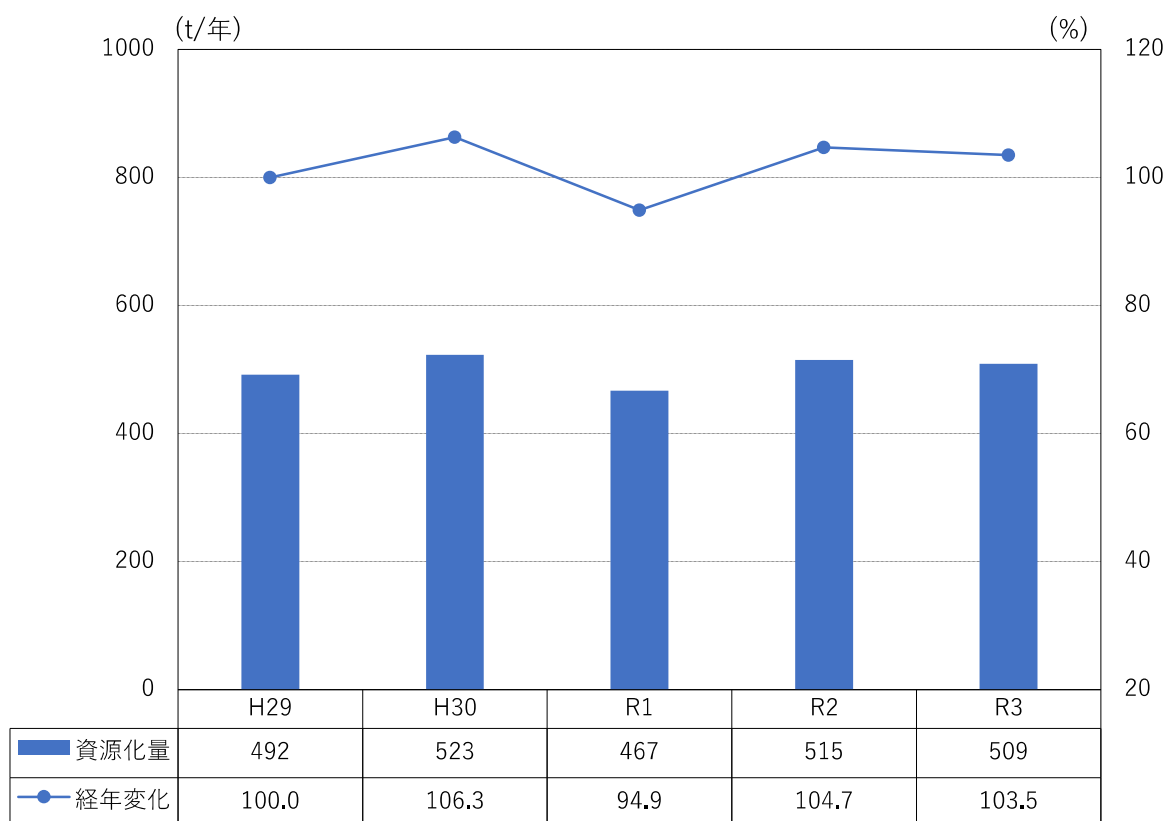
平成29年度～令和3年度の本圏域の資源化量の状況を図表3-4-2～3に示します。資源化量は増減をしながら推移しており、令和元年度は減少していますが、経年的にはほぼ横ばいで推移しています。なお、令和3年度の資源化量は509t/年で、平成29年度（492t/年）に対して3.5%（+17t/年）の増加となっています。

◆図表 3-4-2 本圏域のごみ排出量及び資源化量

単位：t/年

項目	H29	H30	R1	R2	R3	R3-H29	増減率(%)
ごみ排出量	3,848	4,086	3,999	4,029	3,996	148	3.8
資源化量	492	523	467	515	509	17	3.5

◆図表 3-4-3 本圏域の資源化量の推移及び経年変化



3-5 中間処理

1 沖永良部クリーンセンターの概要

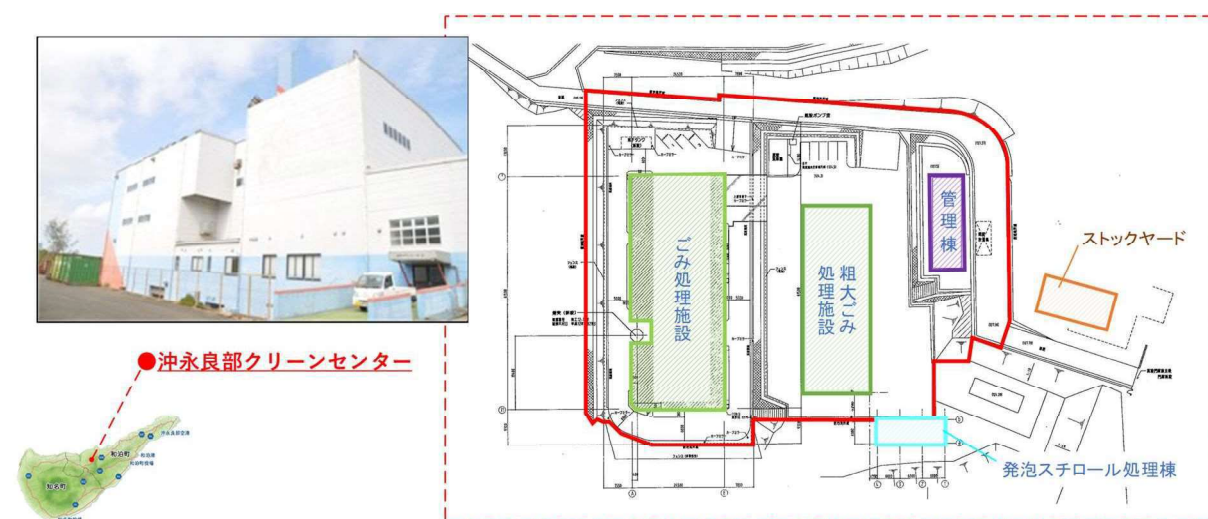
沖永良部クリーンセンターの概要を図表3-5-1に、沖永良部クリーンセンターの配置図を図表3-5-2に、ごみ処理における各施設整備の沿革を図表3-5-3に示します。

本圏域で発生する一般廃棄物は沖永良部クリーンセンターにおいて中間処理が行われています。

◆図表 3-5-1 沖永良部クリーンセンターの概要

項目	内容
名 称	沖永良部クリーンセンター
所 在 地	鹿児島県大島郡泊町瀬名東山1144
事業主体	沖永良部衛生管理組合

◆図表 3-5-2 沖永良部クリーンセンターの配置図



◆図表 3-5-3 ごみ処理における各施設整備の沿革

年月	沿革
昭和52年4月	沖永良部衛生管理組合ごみ処理センター（焼却施設）の供用開始
昭和53年4月	沖永良部衛生管理組合ごみ処理センター（不燃物処理施設）の供用開始
平成10年4月	沖永良部クリーンセンター（粗大ごみ処理施設）の供用開始
	沖永良部クリーンセンター（一般廃棄物最終処分場）の供用開始
平成14年4月	沖永良部クリーンセンター（ごみ焼却・灰溶融施設）の供用開始
平成20年6月	沖永良部クリーンセンター（ストックヤード）の供用開始
平成25年4月	沖永良部クリーンセンター（灰溶融施設）の稼働休止

2 ごみ焼却施設

(1) ごみ焼却施設の概要

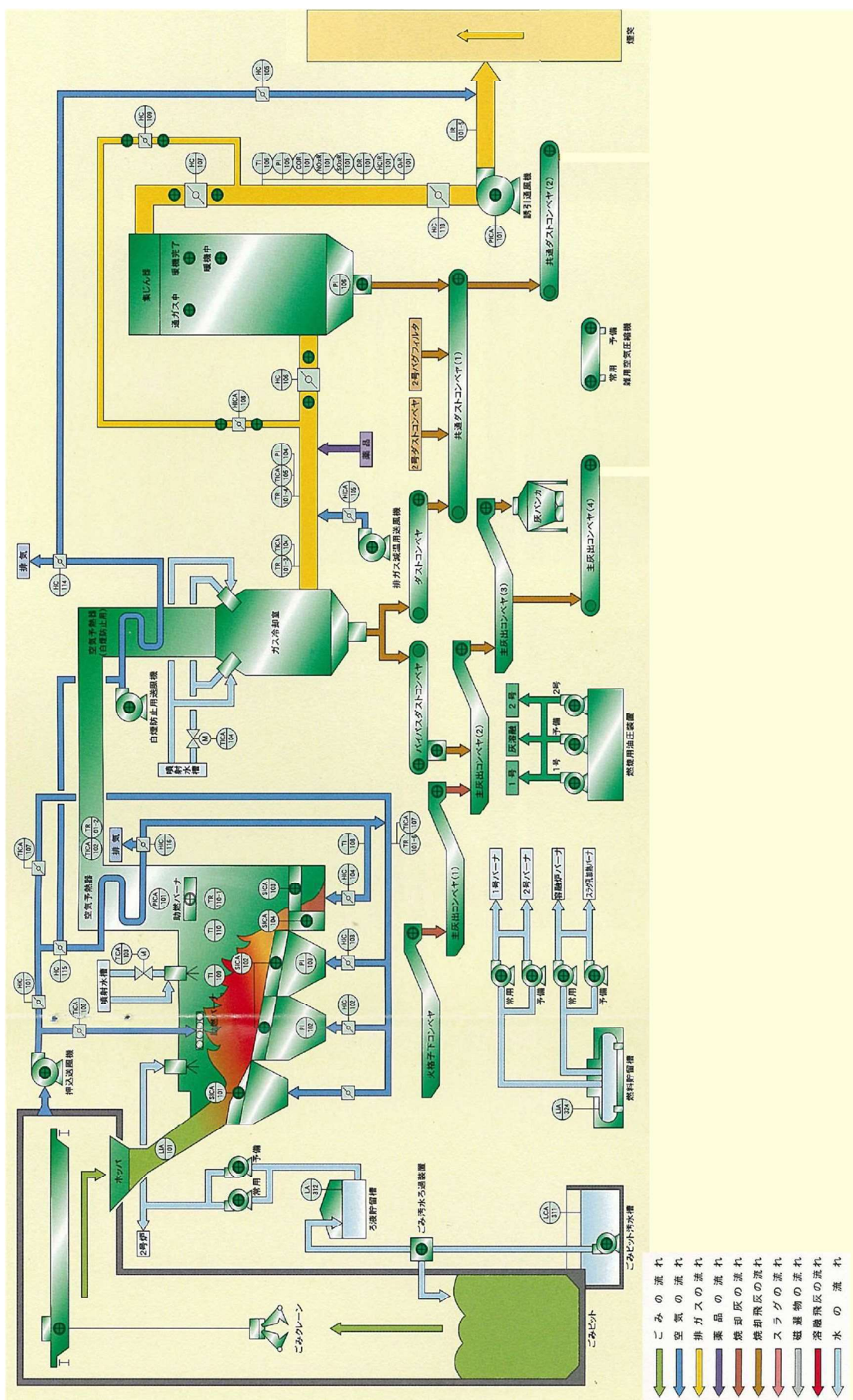
沖永良部クリーンセンター（ごみ焼却施設）の概要を図表3-5-4に、処理フローを図表3-5-5に示します。

本圏域で発生する燃えるごみは沖永良部クリーンセンター（ごみ焼却施設）において焼却処理をしています。なお、灰溶融施設は平成25年4月1日に稼働を休止しています。

◆図表 3-5-4 沖永良部クリーンセンター（ごみ焼却施設）の概要

項目	内容
名 称	沖永良部クリーンセンター（ごみ焼却施設）
所 在 地	鹿児島県大島郡泊町瀬名東山1144
事 業 主 体	沖永良部衛生管理組合
建 設 年 月 日	着工：平成12年2月15日
	竣工：平成14年3月15日
処 理 能 力	66t/日（33t/24h×2炉）
稼 働 時 間	3日間/週（連続運転）
処 理 対 象 物	燃えるごみ、ごみ処理残渣
炉 型 式	全連続運転ストーカ方式
供 給 方 式	ピット&クレーン方式
燃 焼 ガ ス 冷 却 設 備	水噴射式
炉 の 形 式	ストーカ炉（デロール式階段火格子）
排 ガ ス 処 理 設 備	バグフィルタ+乾式排ガス処理方式（消石灰及び活性炭吹込み）
排 水 処 理	凝集沈殿処理（場内再利用）
灰 溶 融 設 備	バーナー溶融方式（平成25年4月から休止）
通 風 設 備	平衡通風方式
灰 出 設 備	主灰：乾式灰出コンベヤ+灰バンカ方式
	飛灰：キレート薬剤処理
余 熱 利 用 設 備	無
計 量 器	有
運 営 管 理 体 制	委託

◆図表 3-5-5 沖永良部クリーンセンター（ごみ焼却施設）のフロー図



(2) ごみ焼却処理量

平成29年度～令和3年度のごみ焼却処理量及び埋立処分量の実績を図表3-5-6～8に示します。

沖永良部クリーンセンターのごみ焼却施設における過去5年間の焼却処理量の平均値は3,506t/年、埋立処分量の平均値は297t/年となっています。なお、令和3年度における焼却処理量は3,589t/年であり、内訳としては燃えるごみが3,583t/年、粗大ごみ処理施設からの可燃物が6t/年となっています。また、焼却処理後の残渣は焼却灰が223t/年、飛灰の固化物が75t/年であり、埋立処分量は298t/年となっています。

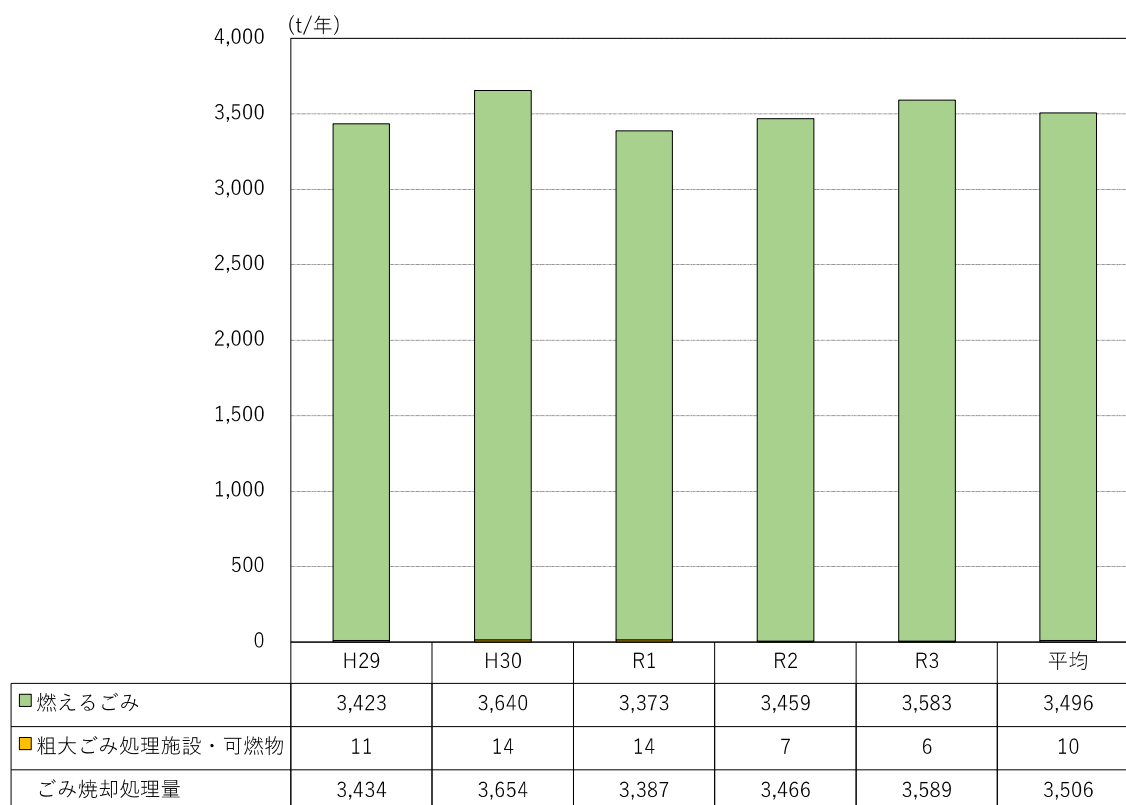
◆図表 3-5-6 ごみ焼却処理量実績

単位：t/年

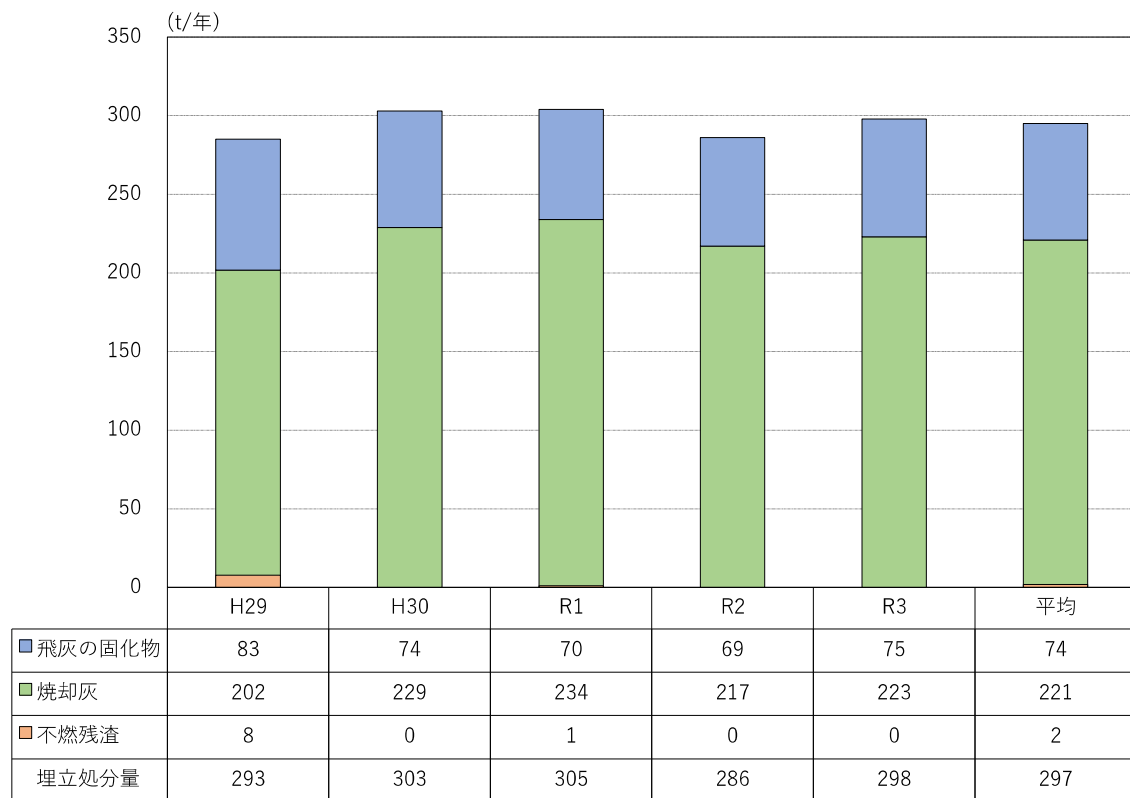
項目		H29	H30	R1	R2	R3	平均
処理	ごみ焼却処理量	3,434	3,654	3,387	3,466	3,589	3,506
	燃えるごみ	3,423	3,640	3,373	3,459	3,583	3,496
	粗大ごみ処理施設・可燃物	11	14	14	7	6	10
搬出	埋立処分量	293	303	305	286	298	297
	(処理量に対する埋立処分量の割合)	8.5%	8.3%	9.0%	8.3%	8.3%	8.5%
	焼却灰	202	229	234	217	223	221
	飛灰の固化物	83	74	70	69	75	74
	不燃残渣	8	0	1	0	0	2

※処理量に対する埋立処分量の割合：埋立処分量÷ごみ焼却処理量×100 により算出

◆図表 3-5-7 ごみ焼却処理量の推移



◆図表 3-5-8 埋立処分量の推移



3 粗大ごみ処理施設

(1) 粗大ごみ処理施設の概要

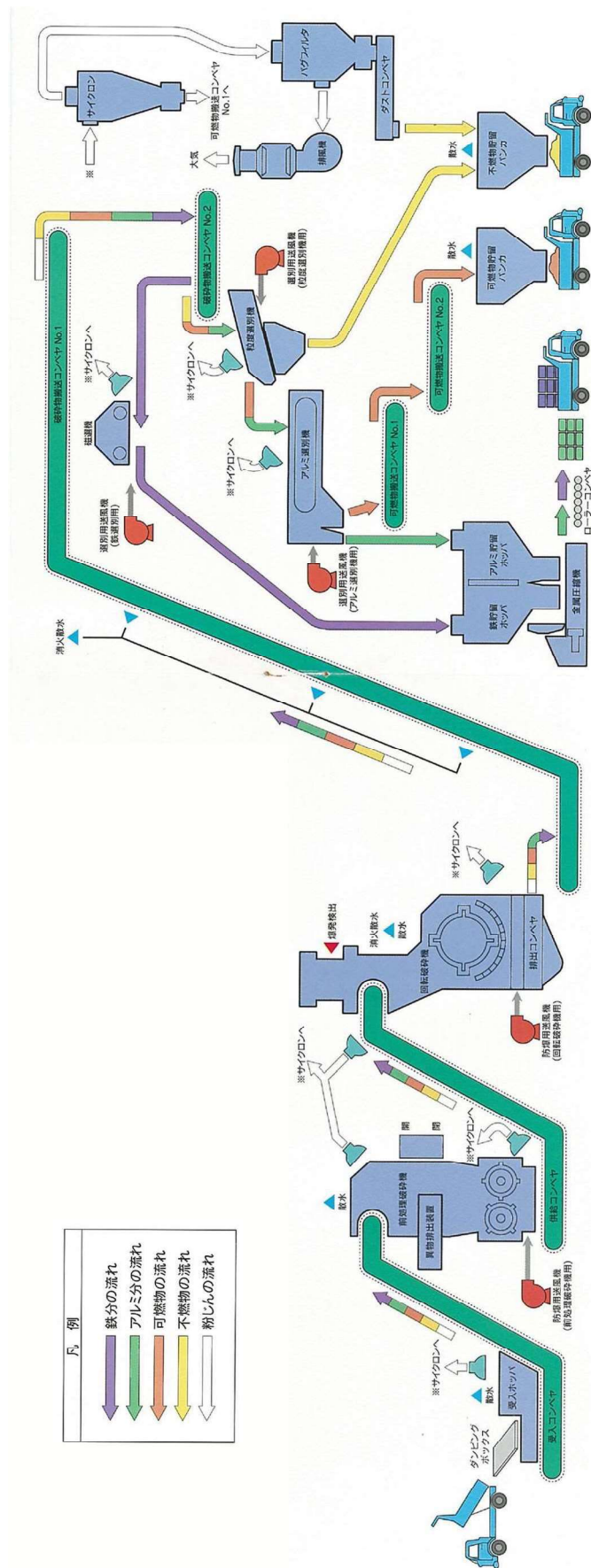
沖永良部クリーンセンター（粗大ごみ処理施設）の概要を図表3-5-9に、処理フローを図表3-5-10に示します。

本圏域で発生する粗大ごみは沖永良部クリーンセンター（粗大ごみ処理施設）において破碎、機械選別等の処理をしています。

◆図表 3-5-9 沖永良部クリーンセンター（粗大ごみ処理施設）の概要

項目	内容
名 称	沖永良部クリーンセンター（粗大ごみ処理施設）
所 在 地	鹿児島県大島郡和泊町瀬名東山1144
事 業 主 体	沖永良部衛生管理組合
建 設 年 月 日	着工：平成8年7月18日 竣工：平成10年4月1日
処 理 能 力	8t/5h
稼 働 時 間	4日間/週
処 理 対 象 物	燃えないごみ、粗大ごみ、空きビン、ペットボトル、発泡スチロール
選 別 方 式	破碎、磁力選別、風力選別、圧縮、減容など
計 量 器	有
運営管理体制	委託

◆図表 3-5-10 沖永良部クリーンセンター（粗大ごみ処理施設）のフロー図



(2) 粗大ごみ処理量

平成29年度～令和3年度の運転実績を図表3-5-11～12に示します。

沖永良部クリーンセンターの粗大ごみ処理施設における過去5年間の資源化量の平均値は501t/年となっています。なお、令和3年度における資源化量は509t/年であり、内訳として、アルミが45t/年、スチールが76t/年、その他・金属類が182t/年、ビン（無色）が26t/年、ビン（茶色）が43t/年、ビン（その他）が18t/年、ダンボールが62t/年、発泡スチロールが4t/年、可燃物（焼却処理）が6t/年、不燃物残渣（埋立処分）が122t/年となっており、資源化量の搬入量に対する割合は71.9%となっています。

◆図表 3-5-11 粗大ごみ処理量実績

単位：t/年

項目		H29	H30	R1	R2	R3	平均	R3-H29（増減率）	
搬入	搬入量 ^{※1}	404	575	604	585	541	542	137	(33.9%)
	燃えないごみ	184	275	303	277	253	258	69	(37.5%)
	資源化ごみ	163	201	227	227	211	206	48	(29.4%)
	粗大ごみ	57	99	74	81	77	78	20	(35.1%)
搬出	資源化量 ^{※1}	492	523	467	515	509	501	17	(3.5%)
	（搬入量に対する資源化量の割合：％） ^{※2}	(121.8%)	(91.0%)	(77.3%)	(88.0%)	(94.1%)	(92.5%)	▲ 27.7 ポイント	
	アルミ	31	38	38	44	45	39	14	(45.2%)
	スチール	59	72	69	79	76	71	17	(28.8%)
	その他・金属類	192	200	175	181	182	186	▲ 10	(▲5.2%)
	ペットボトル	41	46	41	51	53	46	12	(29.3%)
	ビン（無色）	37	39	23	24	26	30	▲ 11	(▲29.7%)
	ビン（茶色）	67	51	44	48	43	51	▲ 24	(▲35.8%)
	ビン（その他）	27	30	22	21	18	24	▲ 9	(▲33.3%)
	ダンボール	38	47	55	59	62	52	24	(63.2%)
	発泡スチロール ^{※3}	—	—	—	4	4	4	—	
	乾電池 ^{※3}	—	—	—	2	—	2	—	
	蛍光灯 ^{※3}	—	—	—	2	—	2	—	
	可燃物（焼却処理）	11	14	14	7	6	10	▲ 5	(▲45.5%)
	（搬入量に対する焼却処理の割合：％） ^{※4}	(2.7%)	(2.4%)	(2.3%)	(1.2%)	(1.1%)	(1.9%)	▲ 1.6 ポイント	
	不燃物残渣（埋立処分）	100	128	113	120	122	116.6	22	(22.0%)
	（搬入量に対する埋立処分の割合：％） ^{※5}	(24.8%)	(22.3%)	(18.7%)	(20.5%)	(22.6%)	(21.5%)	▲ 2.2 ポイント	

※1：端数処理のため合計値が合致しない箇所があります。

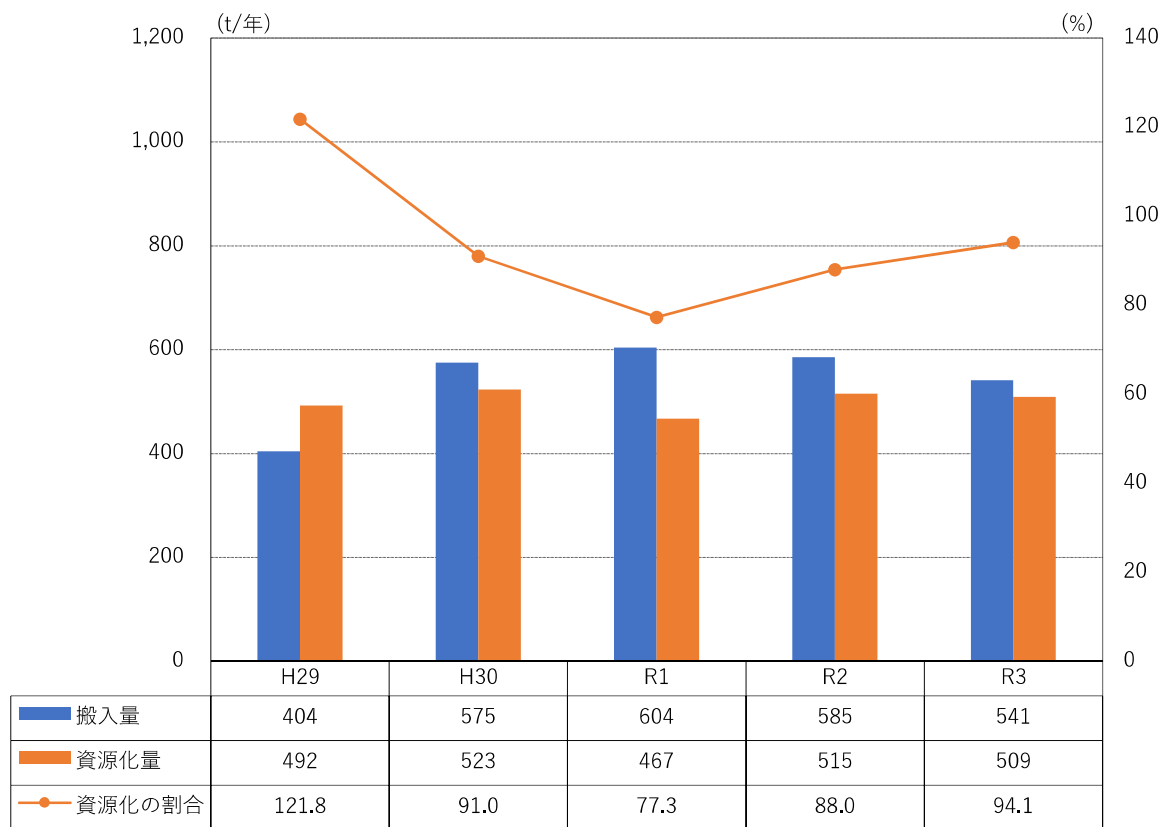
※2：搬入量に対する資源化量の割合：資源化量÷搬入量×100 により算出

※3：発泡スチロール、乾電池、蛍光灯は5年に1回程度の搬出であり、搬出していない年度は「—」としています。

※4：搬入量に対する焼却処理の割合：可燃物÷搬入量×100 により算出

※5：搬入量に対する埋立処分の割合：不燃物残渣÷搬入量×100 により算出

◆図表 3-5-12 粗大ごみの搬入量及び資源化量の推移及び経年変化



※資源化の割合：搬入量に対する資源化量の割合

4 スtockヤード

(1) スtockヤードの概要

沖永良部クリーンセンター（ストックヤード）の概要を図表3-5-13に示します。

本圏域で発生する資源化物等は粗大ごみ処理施設にて処理された後、ストックヤードで一時保管されたのち指定法人や再生処理業者等に引き渡されています。

◆図表 3-5-13 沖永良部クリーンセンター（ストックヤード）の概要

項目	内容
名 称	沖永良部クリーンセンター（ストックヤード）
所 在 地	鹿児島県大島郡和泊町瀬名東山1144
事 業 主 体	沖永良部衛生管理組合
建 設 年 月 日	着工：平成20年2月29日
	竣工：平成20年6月1日
建 築 面 積	499.80㎡
一時保管対象物	アルミ、スチール、ペットボトル、空きビン、ダンボール、 発泡スチロール、乾電池、蛍光灯
運 営 管 理 体 制	委託

(2) 資源化量及び再生利用率

平成29年度～令和3年度の資源化量及び再生利用率の実績を図表3-5-14～15に示します。

沖永良部クリーンセンターのストックヤードにおける過去5年間の資源化量の平均値は501t/年となっています。なお、令和3年度における資源化量は509t/年となっており、内訳としてはその他・金属類が最も多く182t/年、次いでスチールが76t/年、ダンボールが62t/年の順となっています。

◆図表 3-5-14 資源化量及び再生利用率

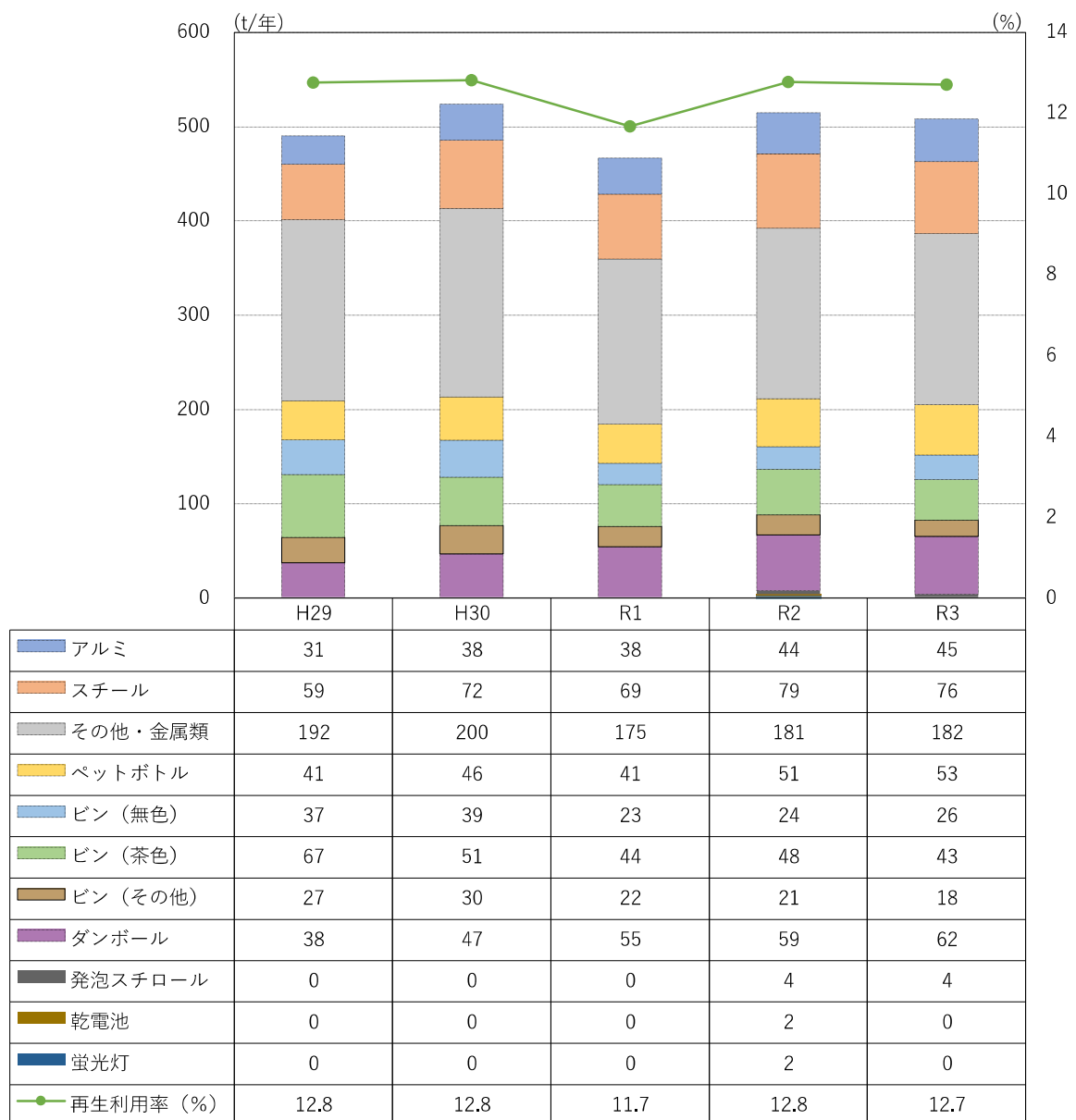
単位：t/年

項目	H29	H30	R1	R2	R3	平均	R3-H29 (増減率)
ごみ排出量	3,848	4,086	3,999	4,029	3,996	3,992	148 (3.8%)
資源化量	492	523	467	515	509	501	17 (3.5%)
(再生利用率・リサイクル率：%) ※1	(12.8%)	(12.8%)	(11.7%)	(12.8%)	(12.7%)	(12.6%)	▲ 0.1 ポイント
粗 大 ご み 処 理 施 設	アルミ	31	38	38	44	45	14 (45.2%)
	スチール	59	72	69	79	76	17 (28.8%)
	その他・金属類	192	200	175	181	182	▲ 10 (▲5.2%)
	ペットボトル	41	46	41	51	53	12 (29.3%)
	ビン (無色)	37	39	23	24	26	▲ 11 (▲29.7%)
	ビン (茶色)	67	51	44	48	43	▲ 24 (▲35.8%)
	ビン (その他)	27	30	22	21	18	▲ 9 (▲33.3%)
	ダンボール	38	47	55	59	62	24 (63.2%)
	発泡スチロール ※2	—	—	—	4	4	—
	乾電池 ※2	—	—	—	2	—	—
	蛍光灯 ※2	—	—	—	2	—	—

※1：再生利用率・リサイクル率：資源化量÷ごみ排出量×100 により算出

※2：発泡スチロール、乾電池、蛍光灯は5年に1回程度の搬出であり、搬出していない年度は「—」としています。

◆図表 3-5-15 資源化量及び再生利用率の推移及び経年変化



※発泡スチロール、乾電池、蛍光灯は5年に1回程度の搬出であり、搬出していない年度は「0」としています。

5 最終処分場

（1）最終処分場の概要

沖永良部クリーンセンター（一般廃棄物最終処分場）の概要を図表3-5-16に示します。

ごみ焼却施設から搬出される焼却灰、飛灰の固化物及び粗大ごみ処理施設から搬出される不燃残渣は沖永良部クリーンセンターの一般廃棄物最終処分場へ搬入し、埋立処分を行っています。

◆図表 3-5-16 沖永良部クリーンセンター（一般廃棄物最終処分場）の概要

項目	内容
名 称	沖永良部クリーンセンター（一般廃棄物最終処分場）
所 在 地	鹿児島県大島郡和泊町瀬名東山1144
事 業 主 体	沖永良部衛生管理組合
建 設 年 月 日	着工：平成8年7月5日
	竣工：平成10年3月10日
埋 立 開 始 年 月	平成10年4月
敷 地 面 積	4,700㎡
全 体 容 積	27,500㎡
遮 水 工 の 有 無	有 表面遮水工
埋 立 対 象 物	焼却灰、飛灰の固化物、不燃残渣
浸出調整池貯留能力	有
汚水調整池貯留能力	日平均35㎡/日
浸 出 水 処 理 方 式	生物処理＋凝集沈殿処理＋高度処理
運 営 管 理 体 制	委託

（２）最終処分量及び最終処分率

平成29年度～令和3年度の最終処分量及び最終処分率の実績を図表3-5-17～18に示します。

沖永良部クリーンセンターの一般廃棄物最終処分場における過去5年間の最終処分量の平均値は414t/年、最終処分率は10.4％となっています。

ア 令和3年度における最終処分量は420t/年であり、平成29年（393t/年）に対して6.9％（＋27t/年）増加しています。

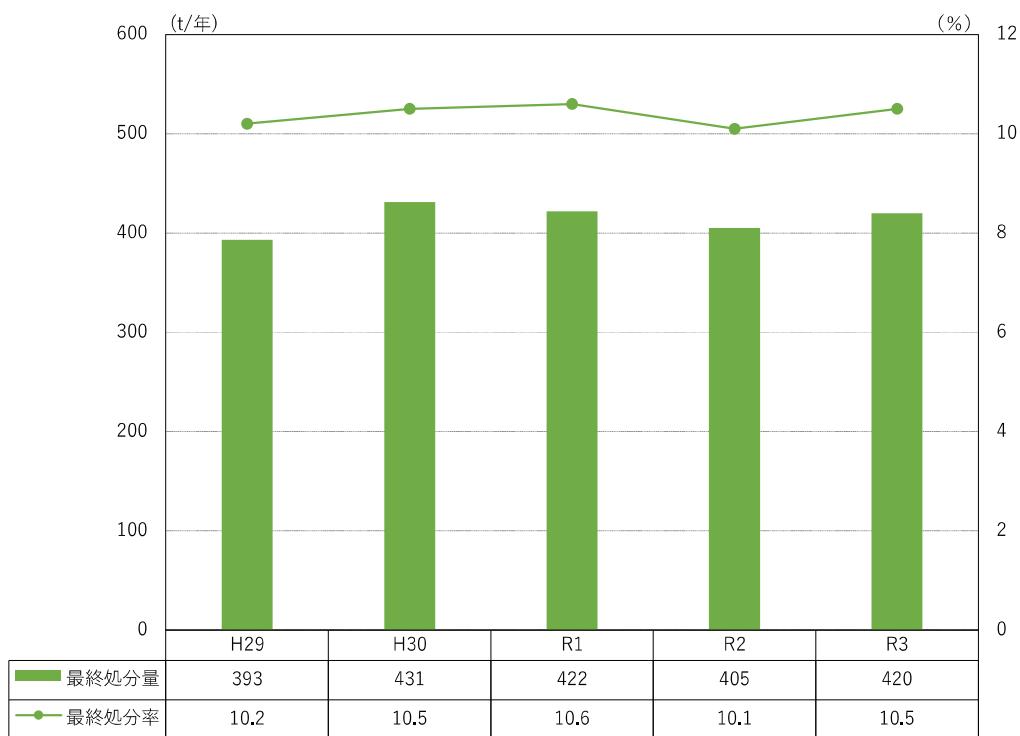
イ 令和3年度における最終処分率は10.5％であり、平成29年（10.2％）に対して0.3ポイント増加しています。

◆図表 3-5-17 最終処分量及び最終処分率

単位：t/年

項目	H29	H30	R1	R2	R3	平均	R3-H29（増減率）
ごみ排出量	3,848	4,086	3,999	4,029	3,996	3,992	148 (3.8%)
最終処分量 (最終処分率：％)	393 (10.2%)	431 (10.5%)	422 (10.6%)	405 (10.1%)	420 (10.5%)	414 (10.4%)	27 (6.9%) 0.3ポ イント
ごみ 焼却施設	焼却灰	202	229	234	217	223	21 (10.4%)
	飛灰の固化物	83	74	70	69	75	74 ▲ 8 (▲9.6%)
	不燃残渣	8	0	1	0	0	2 ▲ 8 (▲100.0%)
粗大ごみ 焼却施設	不燃物残渣	100	128	117	119	122	117 22 (22.0%)

◆図表 3-5-18 最終処分量及び最終処分率の推移と経年変化



7 ごみ処理の評価

(1) 国及び鹿児島県の実績値と本圏域の実績との比較

令和2年度の本圏域のごみ排出量の実績値と国及び鹿児島県の実績値の比較を図表3-5-19に示します。

ア 本圏域の一人一日あたりのごみ排出量は 916g/人・日で、鹿児島県（921g/人・日）は下回っていますが、国（901g/人・日）は上回っています。

イ 本圏域のリサイクル率は 12.8%で、国（20.0%）及び鹿児島県（16.0%）を下回っています。

ウ 本圏域の最終処分率は 10.1%で、国（8.7%）と鹿児島県（12.7%）の値の中間程度の値となっています。

◆図表 3-5-19 国及び鹿児島県と本圏域の実績値との比較（令和2年度）

項目	単位	国の実績値	鹿児島県の実績値	本圏域の実績値		
					和泊町	知名町
一人一日あたりのごみ排出量	g/人・日	901	921	916	936	891
リサイクル率	%	20.0	16.0	12.8		
最終処分率	%	8.7	12.7	10.1		

※1：一人一日あたりのごみ排出量＝ごみ総排出量÷人口÷366日

※2：リサイクル率＝総資源化量÷（ごみ処理量＋集団回収量）×100

※3：最終処分率＝最終処分量÷ごみ総排出量×100

出典：「一般廃棄物処理実態調査結果」（環境省ホームページ）

（２）国及び鹿児島県の目標値と本圏域の実績値との比較

国及び鹿児島県のごみ排出量の目標値（令和2年度）の概要を図表3-5-20に、国及び鹿児島県の目標値と本圏域の実績値（令和2年度）との比較を図表3-5-21に示します。

ア 本圏域の一人一日あたりのごみ排出量は国の目標値に対して 247g/人・日、鹿児島県の目標値に対して 26g/人・日上回っています。

イ 本圏域のリサイクル率は国の目標値に対して 14.2 ポイント、鹿児島県の目標値に対して 9.3 ポイント下回っています。

ウ 本圏域の最終処分率は国の目標値に対して 0.1 ポイント、鹿児島県の目標値に対して 1.5 ポイント下回っており、国及び鹿児島県の目標値に到達している状況となっています。（最終処分率は低い方が良いため、国及び鹿児島県の目標値を下回ること目標値に到達することになります。）

◆図表 3-5-20 国及び鹿児島県の目標値の概要（令和 2 年度）

項目	国	鹿児島県
目標年度	令和2年度（2020年度）	令和2年度（2020年度）
ごみ排出量	平成24年度に対して約12%削減 （約 3,960 万トン）	51.6 万トン （平成27年度に対して6.4%削減）
一人一日あたりのごみ排出量	—	890 g/人日 （平成27年度に対して2.7%削減）
一人一日あたりの家庭系ごみ排出量	500 g/人・日 （平成27年度実績値に対して25.2%削減）	—
再生利用量 リサイクル率	再生利用量 排出量比 約27%に増加 （再生利用量：約 1,070 万トン）	22.1 % （平成27年度に対して4.8ポイント増加）
最終処分量	平成24年度に対して約14%削減 （約 405 万トン（H24実績値:470万トン））	6.0 万トン （平成27年度に対して14.3%削減）

出典：「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」
（平成13年5月環境省告示第34号、平成28年1月改正）
「鹿児島県廃棄物処理計画」（平成28年3月）
「一般廃棄物処理実態調査結果」（平成27年度実績）

◆図表 3-5-21 国及び鹿児島県の目標値と本圏域の実績値の比較（令和2年度）

項目	単位	国の 目標値(R2)	鹿児島県の 目標値(R2)	本圏域の 実績値 (R2)	国及び鹿児島県との比較(差)	
					国	鹿児島県
一人一日当たりのごみ排出量	g/人・日	669	890	916	+247	+26
リサイクル率	%	27.0	22.1	12.8	▲ 14.2 ポイント	▲ 9.3 ポイント
最終処分率	%	10.2	11.6	10.1	▲ 0.1 ポイント	▲ 1.5 ポイント

※1：一人一日あたりのごみ排出量＝ごみ総排出量÷人口÷365日（又は366日）

※2：リサイクル率＝総資源化量÷ごみ総排出量×100

※3：最終処分率＝最終処分量÷ごみ総排出量×100

出典：「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」

（平成13年5月環境省告示第34号、平成28年1月改正）

「鹿児島県廃棄物処理計画」（平成28年3月）

「一般廃棄物処理実態調査結果」（平成27年度実績）

（3）ごみ処理システムによる評価

本圏域のごみ処理の評価については「市町村における循環型社会づくりに向けた一般廃棄物処理システムの指針」（平成25年度4月改訂）に基づき、環境省が公表している「市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール」（令和元年実態調査）を利用して、産業構造等が類似している市町村（82市町村）との比較評価を和泊町及び知名町それぞれにおいて行いました。

和泊町と類似市町村との比較結果を図表3-5-22～23に、知名町と類似市町村との比較結果を図表3-5-24～25に示します。図表3-5-22及び3-5-24に示すように、レーダーチャート内の赤で示したラインが偏差値50で、類似市町村の平均値となり、黒太線で示した五角形の面積が大きいほど良好な結果と評価できます。

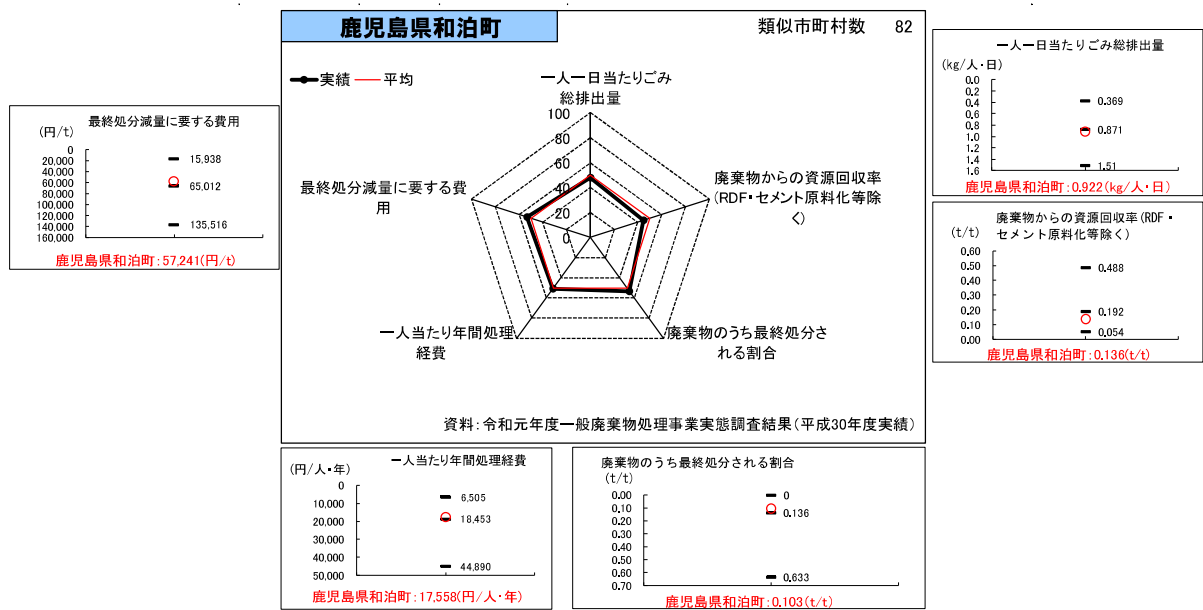
ア 和泊町の評価

和泊町は「廃棄物からの資源回収率（RDF・セメント原料化等を除く）」を除き、「一人一日あたりごみ総排出量」は概ね偏差値50で、「一人一日あたり年間処理経費」「廃棄物のうち最終処分される割合」及び「最終処分減量に要する費用」は偏差値50を上回っており、和泊町のごみ処理は総合的に良好な結果となっています。

イ 知名町の評価

知名町は和泊町の評価と類似しており、「廃棄物からの資源回収率（RDF・セメント原料化等を除く）」を除き、「一人一日あたりごみ総排出量」、「廃棄物のうち最終処分される割合」、「一人一日あたり年間処理経費」及び「最終処分減量に要する費用」は偏差値50を上回っており、知名町のごみ処理は総合的に良好な結果となっています。

◆図表 3-5-22 和泊町のごみ処理システムの評価（令和２年度）



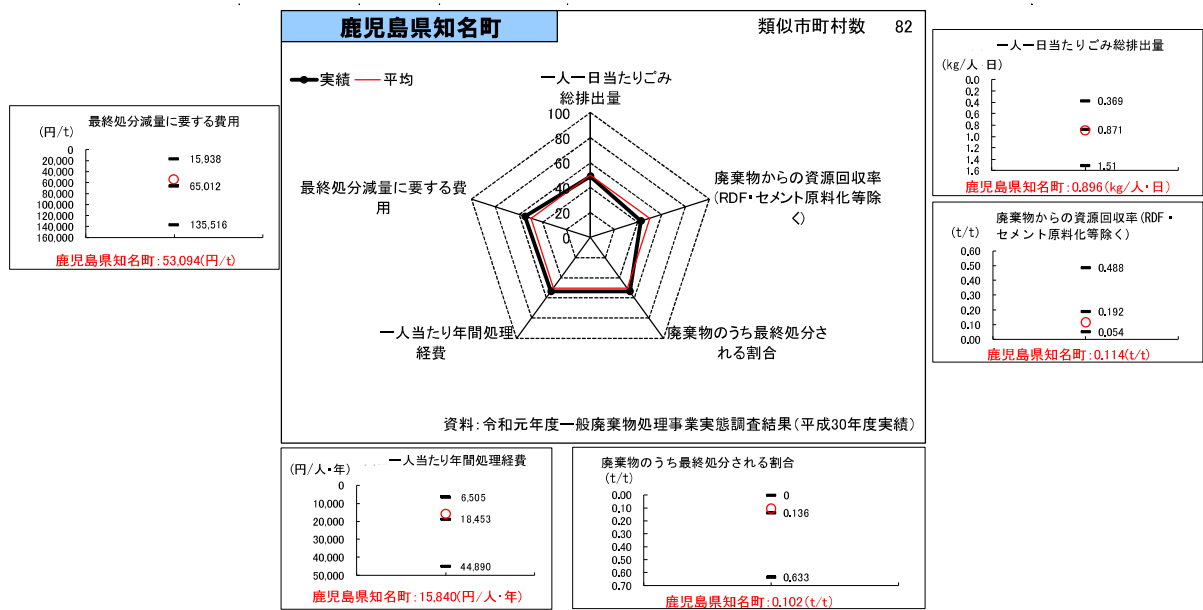
出典：環境省「市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール」（令和2年度版）

◆図表 3-5-23 和泊町のごみ処理システムの評価比較（令和２年度）

標準的な指標	一人一日当たり ごみ総排出量	廃棄物からの 資源回収率 (RDF・セメント 原料化等除く)	廃棄物のうち 最終処分される割合	一人一日当たり 年間処理経費	最終処分減量 に要する費用
(単位)	(kg/人・日)	(t/t)	(t/t)	(円/人年)	(円/t)
和泊町実績 (指数)	0.922 (94.1)	0.136 (70.8)	0.103 (124.3)	17,558 (104.9)	57,241 (112.0)
類似市町村内平均	0.871	0.192	0.136	18,453	65,012
類似市町村内最大	1.51	0.488	0.633	44,890	135,516
類指示町村内最小	0.369	0.054	0	6,505	15,938
標準偏差	0.216	0.107	0.1	7,290	24,269

※「市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール」（環境省）により算出

◆図表 3-5-24 知名町のごみ処理システムの評価（令和 2 年度）



出典：環境省「市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール」（令和2年度版）

◆図表 3-5-25 知名町のごみ処理システムの評価比較（令和 2 年度）

標準的な指標	一人一日当たり ごみ総排出量	廃棄物からの 資源回収率 (RDF・セメント 原料化等除く)	廃棄物のうち 最終処分される割合	一人一日当たり 年間処理経費	最終処分減量 に要する費用
(単位)	(kg/人・日)	(t/t)	(t/t)	(円/人年)	(円/t)
知名町実績 (指数)	0.896 (97.1)	0.114 (59.4)	0.102 (125.0)	15,840 (114.2)	53,094 (118.3)
類似市町村内平均	0.871	0.192	0.136	18,453	65,012
類似市町村内最大	1.51	0.488	0.633	44,890	135,516
類指示町村内最小	0.369	0.054	0	6,505	15,938
標準偏差	0.216	0.107	0.1	7,290	24,269

※「市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール」（環境省）により算出

3-6 現行計画の総括

1 現行計画における人口予測

(1) 和泊町の行政区域内人口

和泊町の現行計画における人口予測及び平成28年度～令和3年度までの人口実績を図表3-6-1～2に示します。

令和3年度の人口実績は6,216人であり、現行計画における人口予測（6,489人）に対して-273人の差が生じています。なお、平成28年度における人口実績（6,650人）と人口予測（6,746人）の差は-96人であり、人口実績と人口予測の差は年々広がっています。

◆図表 3-6-1 和泊町の行政区域内人口

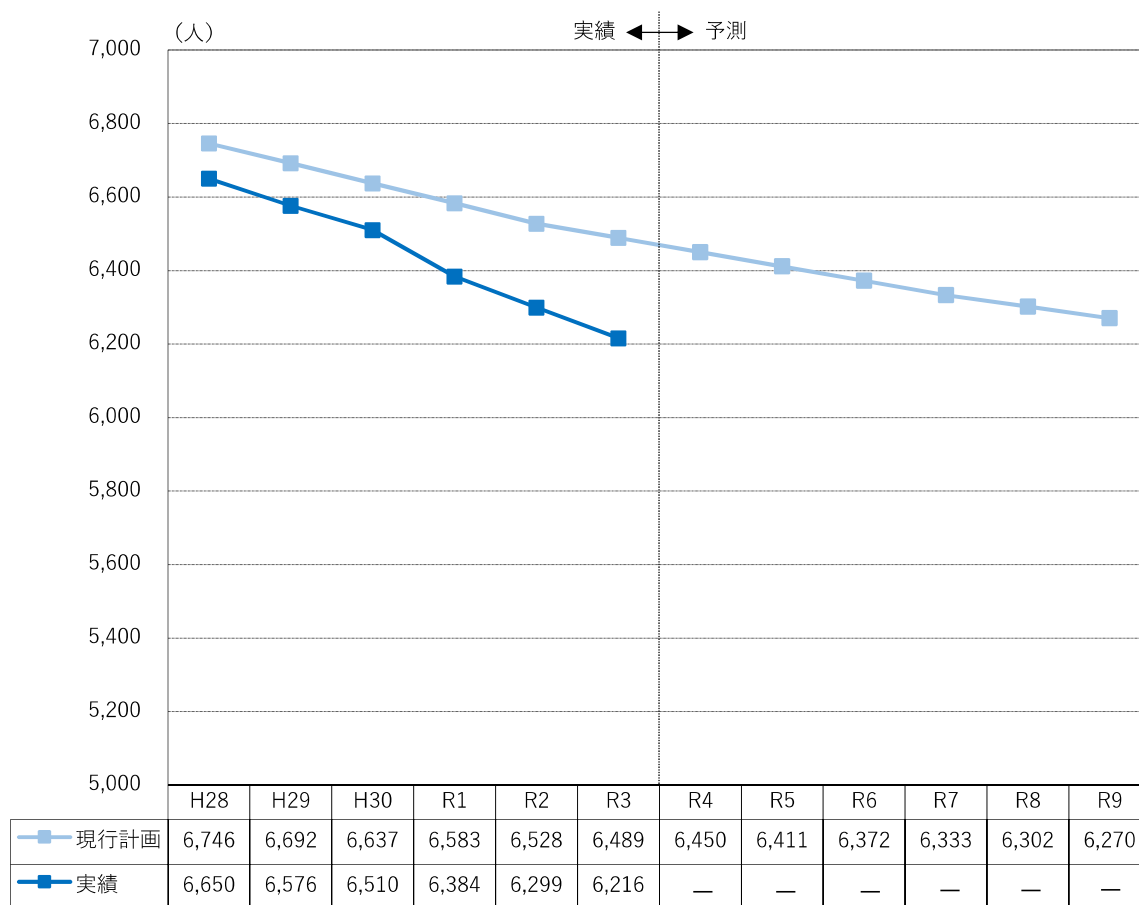
単位：人

年度	人口		現行計画との差	備考
	現行計画	実績		
人口	H28	6,746	6,650	▲ 96
	H29	6,692	6,576	▲ 116
	H30	6,637	6,510	▲ 127
	R1	6,583	6,384	▲ 199
	R2	6,528	6,299	▲ 229
	R3	6,489	6,216	▲ 273 将来展望人口※
将来推計人口	R4	6,450	—	6,405人
	R5	6,411	—	6,344人
	R6	6,372	—	6,283人
	R7	6,333	—	6,222人
	R8	6,302	—	6,169人
	R9	6,270	—	6,115人

※「和泊町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン」の将来展望人口は2040年において5,460人と設定され、5年ごとに推計（R7:6,222人）されており、そのほかの将来計画人口は均等に増減するような補完値が設定されています。

出典「和泊町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン」（平成27年9月）

◆図表 3-6-2 和泊町の行政区域内人口の推移



(2) 知名町の行政区域内人口

知名町の現行計画における人口予測及び平成28年度～令和3年度までの人口実績を図表3-6-3～4に示します。

令和3年度の人口実績は5,611人であり、現行計画における人口予測（6,260人）に対して-649人の差が生じています。なお、平成28年度における人口実績（6,092人）と人口予測（6,220人）の差は-128人であり、人口実績と人口予測の差は年々広がっています。

◆図表 3-6-3 知名町の行政区域内人口

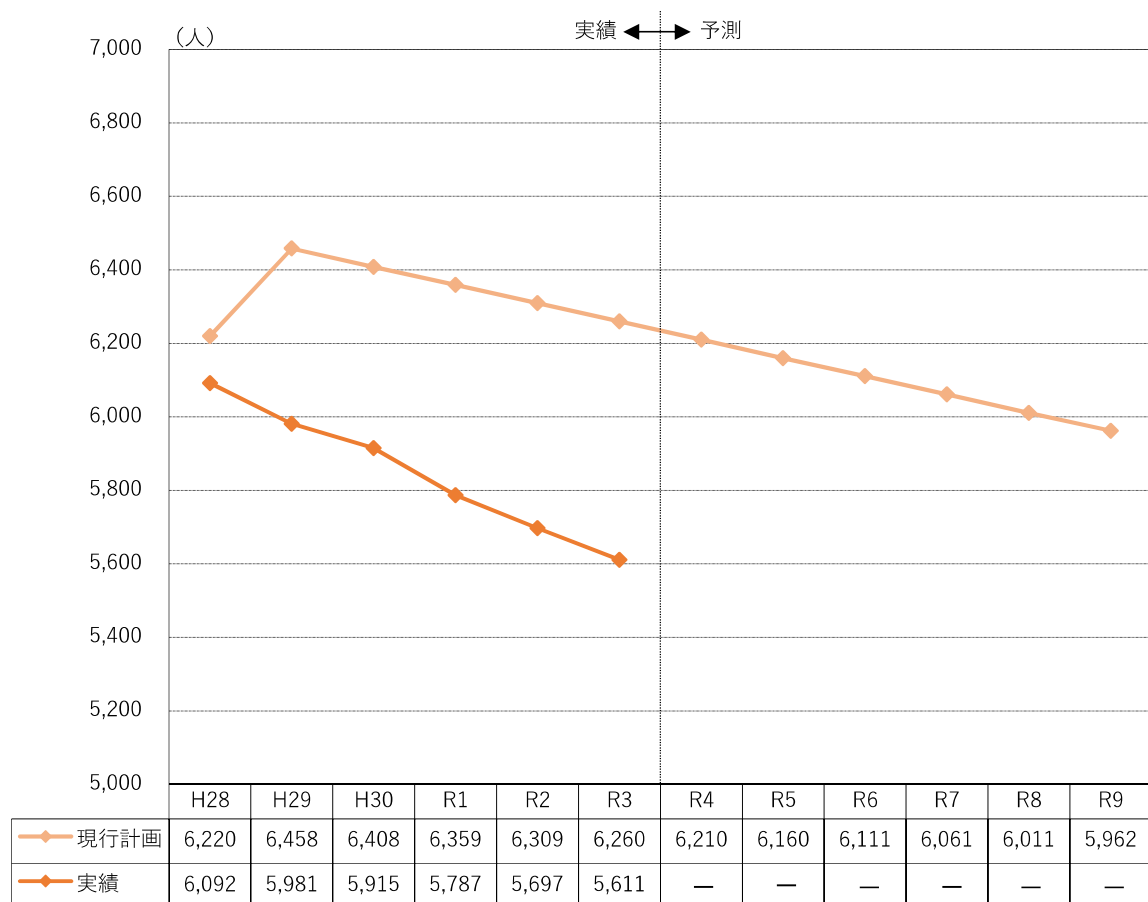
単位：人

年度		人口		現行計画との差	備考
		現行計画	実績		
人口	H28	6,220	6,092	▲ 128	
	H29	6,458	5,981	▲ 477	
	H30	6,408	5,915	▲ 493	
	R1	6,359	5,787	▲ 572	
	R2	6,309	5,697	▲ 612	
	R3	6,260	5,611	▲ 649	
将来推計人口	R4	6,210	—	—	
	R5	6,160	—	—	
	R6	6,111	—	—	
	R7	6,061	—	—	
	R8	6,011	—	—	
	R9	5,962	—	—	

※「知名町人口ビジョン」の将来展望人口は2040年において5,318人と設定されており、その他の将来計画人口は実績値（2010年：6,806人）から直線的に増減するような補完値が設定されています。

出典「知名町人口ビジョン」（平成27年9月）

◆図表 3-6-4 知名町の行政区域内人口の推移



(3) 本圏域の行政区域内人口

本圏域の現行計画における人口予測及び平成28年度～令和3年度までの人口実績を図表3-6-5～6に示します。

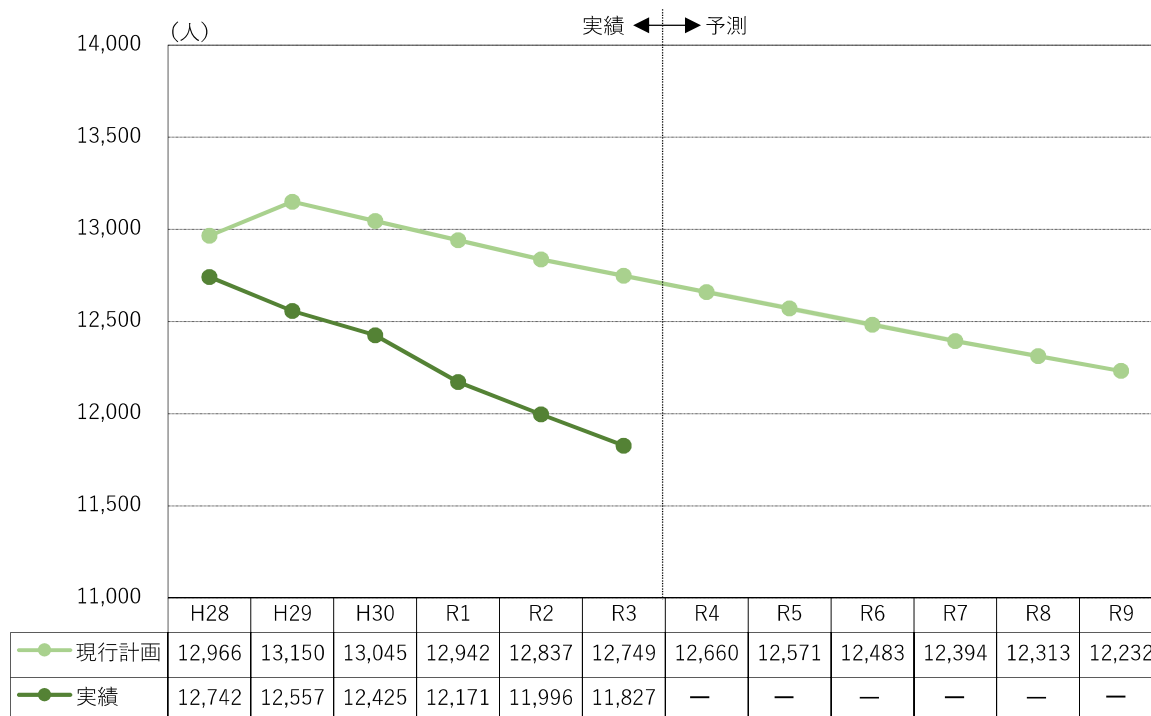
令和3年度の人口実績は11,827人であり、現行計画における人口予測（12,749人）に対して-922人の差が生じています。なお、平成28年度における人口実績（12,742人）と人口予測（12,966人）の差は-224人であり、人口実績と人口予測の差は年々広がっています。

◆図表 3-6-5 本圏域の行政区域内人口

単位：人

年度	人口		現行計画との差	備考
	現行計画	実績		
人口	H28	12,966	12,742	▲ 224
	H29	13,150	12,557	▲ 593
	H30	13,045	12,425	▲ 620
	R1	12,942	12,171	▲ 771
	R2	12,837	11,996	▲ 841
	R3	12,749	11,827	▲ 922
将来推計人口	R4	12,660	—	—
	R5	12,571	—	—
	R6	12,483	—	—
	R7	12,394	—	—
	R8	12,313	—	—
	R9	12,232	—	—

◆図表 3-6-6 本圏域の行政区域内人口の推移



2 現行計画の目標値の概要と実績値比較

本圏域の現行計画におけるごみ排出量の目標値の概要を図表3-6-7に、現行計画の目標値と実績値（令和3年度）の比較を図表3-6-8に示します。

現行計画の中間目標年度である令和4年度の目標値（中間目標値）と比較した結果、令和3年度においては一人一日あたりのごみ排出量、リサイクル率及び最終処分量ともに目標値に到達出来ていない状況となっています。

なお、一人一日あたりのごみ排出量（令和3年度実績）は921g/人・日であり、目標値（779g/人・日）に対して18.2%（+142g/人・日）上回っており、リサイクル率（令和3年度実績）は12.7%で、目標値（12.6%）に対して0.1ポイント上回っています。また、最終処分量は420t（最終処分量：10.5%）で、目標値（308t、最終処分量：8.5%）に対して112t（-2.0ポイント）下回っており、リサイクル率を除き目標に到達出来ていない状況となっています。

◆図表 3-6-7 現行計画の目標値の概要

項目	本圏域 現行計画		
	平成28年度実績値	中間目標	計画目標
目標年度	—	令和4年度	令和9年度
一人一日あたりのごみ排出量	800 g/人・日	775 g/人日（▲25 g/人・日） （平成28年度に対して3.1%削減）	750 g/人日（▲25 g/人・日） （平成28年度に対して6.3%削減）
リサイクル率	10.7 %	13.0 % （平成28年度に対して2.3ポイント増加）	15.0 % （平成28年度に対して4.3ポイント増加）
最終処分量	368 トン （排出量に対して9.6%）	304トン （排出量に対して8.5%） （平成28年度に対して1.1%削減）	279 トン （排出量に対して8.3%） （平成28年度に対して1.3%削減）

◆図表 3-6-8 現行計画の目標値と実績値の比較（令和3年度）

項目	現行計画目標値（令和3年度）			実績値（令和3年度）			目標値との差	
	本圏域	和泊町	知名町	本圏域	和泊町	知名町	差	比（%）
排出量（t）	3,626	1,871	1,755	3,996	2,117	1,879	370	10.2
一人一日あたり ごみ排出量（g/人・日）	779	790	768	921	929	912	142	18.2
リサイクル率（%）	12.6			12.7			0.1 ポイント	
最終処分量（t）	308			420			112	36.4
最終処分量（%）	8.5			10.5			2.0 ポイント	

※1：一人一日あたりのごみ排出量＝ごみ総排出量÷人口÷365日（又は366日）

※2：リサイクル率＝総資源化量÷ごみ総排出量×100

※3：最終処分量＝最終処分量÷ごみ総排出量×100

出典：「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（平成30年3月）」

3 目標達成状況

現行計画では「発生抑制の推進」、「資源化の推進」、「適正処理の推進」の3つの目標を掲げて和泊町及び知名町と連携し、循環型社会の形成を目指すとともに、地球規模での温暖化問題に対処できるよう各種施策に取り組んでいます。

本計画では各種施策の取り組み状況を確認するとともにごみ処理の実績を整理し、目標達成状況を確認することで本計画の策定に向けて課題を抽出します。

<平成30年度～令和3年度の主な取り組み>

- *平成30年 3月：一般廃棄物（ごみ）処理計画の策定
- *令和2年10月：レジ袋有料化に伴い、ごみゼロエコバッグ（大・小）を各家庭に配布
- *令和2年10月：SDGs取組（町民3大運動マグネット：公用車・庁舎内）
- *令和3年 1月：不法投棄防止用監視カメラ設置
- *令和3年 7月：家庭ごみの分別表の多言語化（中国・英語・ベトナム語）
- *令和3年10月：家庭用生ごみ処理機等設置費助成事業の実施
（コンポスト系、電子式（バイオ型、乾燥式）生ごみ処理機）

◆図表 3-6-9 数値目標の達成状況

目標指標		単位	基準値	実績値					目標値
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3
一人一日当たりのごみ排出量		g/人・日	800	835	895	893	916	921	779
再生利用率		%	10.7	12.8	12.8	11.7	12.8	12.7	12.6
最終処分量		t/年	368	393	431	422	405	420	308
ごみ 焼却施設	焼却灰	t/年	210	202	229	234	217	223	203
	飛灰の固化物	t/年	72	83	74	70	69	75	76
	不燃残渣	t/年	—	8	0	1	0	0	—
粗大ごみ 焼却施設	不燃物残渣	t/年	86	100	128	117	119	122	29
最終処分率		%	9.7	10.2	10.5	10.6	10.1	10.5	8.5

4 各数値目標の達成状況

本圏域の目標指標ごとの達成状況について、以下の方法によって評価を行いました。

<目標指標別の評価>

【評価】

- * A（進捗率81%以上）：十分に達成されている
- * B（進捗率63%以上～81%未満）：おおむね達成されている
- * C（進捗率63%未満）：あまり達成されていない

【進捗率の計算式】

X：基準値（平成28年度実績値）

Y：実績値（令和3年度実績値）

Z：目標値（令和3年度目標値）

$$\text{進捗率} = \frac{Y - X}{Z - X}$$

(1) 一人一日あたりのごみ排出量

本圏域の一人一日あたりのごみ排出量の達成状況を図表3-6-10に示します。

進捗率の計算式より、進捗率は-569.8%であり、評価はCとなります。

これは、令和3年度の実績値が基準値となる平成28年度実績値に対して増加しており、目標値との差が広がったためです。なお、「一人一日あたりのごみ排出量」が達成されていない要因は、収集ごみ量及び直接搬入ごみ量ともに増えていますが、直接搬入ごみ量により増加したことが挙げられます。

◆図表 3-6-10 一人一日あたりのごみ排出量の達成状況

進捗率： $\frac{-569.8\%}{-569.8\%}$

評価： C

基準値 (X)	実績値 (Y)	目標値 (Z)
H28実績値	R3実績値	R3目標値
800	921	779

ア 一人一日あたりのごみ排出量（収集ごみ）

本圏域の一人一日あたりのごみ排出量（収集ごみ）の達成状況を図表3-6-11に示します。

進捗率の計算式より、進捗率は-64.7%であり、評価はCとなります。

これは、令和3年度の実績値が基準値となる平成28年度実績値に対して増加しており、目標値との差が広がったためです。

◆図表 3-6-11 一人一日あたりのごみ排出量（収集ごみ）の達成状況

進捗率： $\frac{-64.7\%}{-64.7\%}$

評価： C

基準値 (X)	実績値 (Y)	目標値 (Z)
H28実績値	R3実績値	R3目標値
563	574	546

イ 一人一日あたりのごみ排出量（直接搬入ごみ）

本圏域の一人一日あたりのごみ排出量（収集ごみ）の達成状況を図表3-6-12に示します。

進捗率の計算式より、進捗率は-2981.1%であり、評価はCとなります。

これは、令和3年度の実績値が基準値となる平成28年度実績値に対して増加しており、目標値との差が広がったためです。

◆図表 3-6-12 一人一日あたりのごみ排出量（直接搬入ごみ）の達成状況

進捗率：-2981.1%

評価：C

基準値 (X)	実績値 (Y)	目標値 (Z)
H28実績値	R3実績値	R3目標値
237	347	233

(2) 再生利用率

本圏域の再生利用率の達成状況を図表3-6-13に示します。

進捗率の計算式より、進捗率は 105.8%であり、評価は A となります。

◆図表 3-6-13 再生利用率の達成状況

進捗率：105.8%

評価：A

基準値 (X)	実績値 (Y)	目標値 (Z)
H28実績値	R3実績値	R3目標値
10.7	12.7	12.6

(3) 最終処分量

本圏域の最終処分量の達成状況を図表3-6-14に示します。

進捗率の計算式より、進捗率は-86.7%であり、評価はCとなります。

これは、令和3年度の実績値が基準値となる平成28年度実績値に対して増加しており、目標値との差が広がったためです。なお、「最終処分量」が達成されていない要因は焼却灰が減少していないことが挙げられます。

◆図表 3-6-14 最終処分量の達成状況

進捗率：-86.7%

評価：C

基準値 (X)	実績値 (Y)	目標値 (Z)
H28実績値	R3実績値	R3目標値
368	420	308